

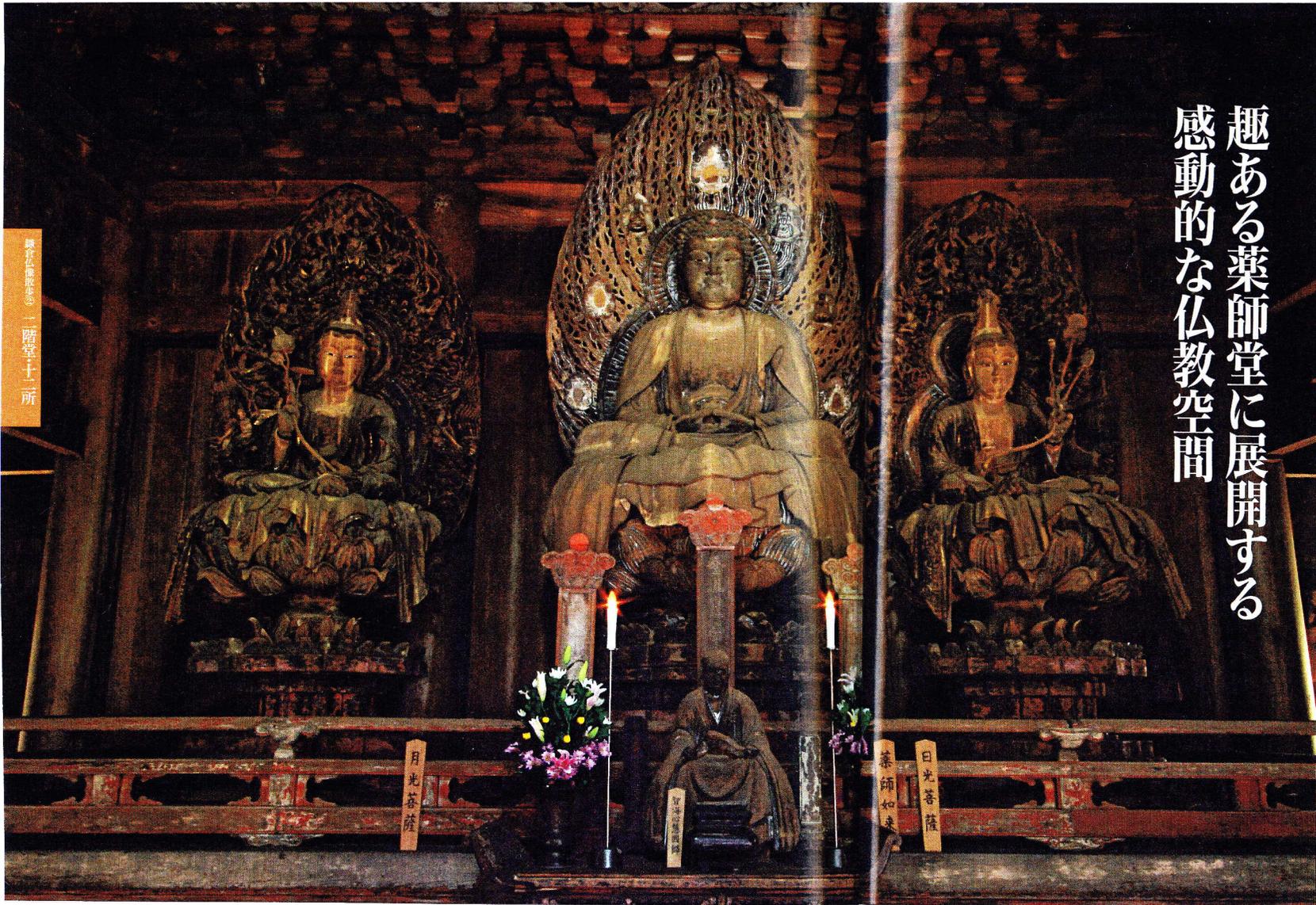
古の鎌倉を今にとどめる浄域

覚園寺

かくおんじ

本堂(薬師堂)の内部。薬師三尊像(4～5ページ参照)のほか、その両側の壁を背にほぼ等身大の十二神将(室町時代)、阿弥陀仏坐像(頼阿弥陀像、南北朝時代)、伽藍神3体(室町時代)などが奉安されている。

趣ある薬師堂に展開する感動的な仏教空間



鎌倉仏像散歩の「階堂十二所」



通称「黒地蔵」と呼ばれる等身大の地藏菩薩立像(重文)を奉安する地藏堂。写真右奥に「十三仏やぐら」が見える。

ここには、ガイドブック類には紹介されない感動的な空間が存在する。境内の参拝は自由でなく、写真も禁止。だがそこに、境内の自然や景観、宝物類を含めた覚園寺の全体を、祈りを捧げる場として正しく伝えていこうとする寺側の見識がうかがえる。というのも、参詣者に対して1日5～6回、40～50分かけて案内者が寺内をガイドしてくれるのだ。所感する仏像は、質量ともに鎌倉一と評される。まずは、山門近くの愛染堂の外から、鎌倉時代の阿闍如来像(鎌倉十三仏)や鉄造不動明王像(旧大薬寺本尊)、等身大の愛染明王坐像(南北朝時代)などを拝観

いよいよ薬師堂へと導かれる。谷戸の景観に溶け込んだその外観に感嘆しつつ中に入ると、息を呑むほどの空間が待ち受けていた。中央でひととき存在感を放つ薬師如来坐像と、優美な宋風の日光・月光菩薩像。左右の壁を以ては十二神将の等身像が勢ぞろいだ。

さらに、境内の旧内海家邸や十三仏やぐらを拝観し、地藏堂に安置された重文の「黒地蔵」を拝して、参詣者は心身を仏の力で満たされる。

写真：鎌倉

自然景観がよく保たれた谷あいの境内を進むと、質実剛健な中世建築の薬師堂と鎌倉最大の横(イヌマキ)が現れる。



覚園寺(真言宗)

鎌倉市二階堂421 ☎0467-22-1195 ●鎌倉駅よりバス「大塔宮」下車、徒歩10分◎拝観情報=拝観料大人500円、小中学生200円。拝観時間は10時、11時、12時(土・日、祝日)、13時、14時、15時、案内つきで行われる(8月、12月20日～1月7日、雨天・荒天時は案内中止)。

二階堂

かくおんじ

覚園寺の薬師三尊

鎌倉を代表する名像と
仏の慈悲を具現する空間

覚園寺の薬師堂に入った瞬間の感動を、いったいどうあらわしたらよいだろう。薄暗い室内に卒然と浮かび上がる荘嚴な薬師三尊像。左右には等身大の表情豊かな十二神将像がずらりと立ちならぶ。そして高みからの視線は、すべて祈る者に向けられているのだ。まさに仏の慈悲と祈る者の畏怖を具現する空間が、ここにある。

薬師如来および日光・月光菩薩坐像

薬師如来は像高181.3センチ、頭部のみ鎌倉時代、体部は南北朝時代と考えられている。脇侍の日光・月光菩薩はそれぞれ像高149.4センチ、150センチで、ともに室町時代の仏師朝祐の作。三尊とも重要文化財。

▶30ページを参照

写真＝染谷學

月光菩薩

薬師如来

日光菩薩